丹高ニュース

№11
令和4年10月24日（月）

～　豊かな学びの実現　～

校則見直し案 地域の声は？ 丹原高生 街頭アンケート

前髪・靴・スマホ… 回答結果参考に

生徒主体で校則の見直しを進めている丹原高校（西条市丹原町願連寺）の1、2年生10人が22日、JA周桑の農産物直売所「周ちゃん広場」（同町池田）で校則改正案に関するアンケートを行った。学校関係者だけでなく、第三者の客観的な意見を取り入れるためで、多くの買い物客が足を止めて地元の学校のルールに考えを巡らせていた。

同校では4月から1、2年生の有志約40人が校則を通して、生徒の意思決定などの力を高める「ルールメイキングプロジェクト」に参加。教員や同校卒業生らと話し合いながら、校則を変える過程や変更案などを精査し「丹原高校は地域に密着した学校なので、地域の人からどう見られるかも大事」と今回のアンケート実施を決めた。

22日、生徒たちは前髪の長さ、靴の種類、スマートフォンの利用の3点について調査。それぞれ校則案の選択肢を設け、写真などを入れて分かりやすく記したボードを見せ、賛成する案にシールを貼ってもらうよう呼びかけた。

買い物客は「こんな校則があるの」「スニーカーだめなんだ」と驚きつつ回答していた。同校2年の武田樹奈さん(17)は「周りから丹原高校の校則がどう見えているのかが分かってよかった。想像以上に『何でもいい』という意見が多くて驚いた」と話した。

同プロジェクトは今後、アンケート結果を参考に校則改正案をまとめ、年明けに学校側に提案する予定。

（竹下世成）

買い物客に校則変更案のアンケートを行う丹原高生（右）
＝22日午後2時半ごろ、西条市丹原町池田

令和４年10月23日（日）付け愛媛新聞
（掲載許可番号d20221024-01）

ルールメイキングプロジェクトの活動範囲を拡大。
実際に地域に出て、生の声を聞きました。

活動の場を校内から校外へ広げました。
学校や地域の課題を解決するために、生徒・教員・保護者・地域が一体になって取り組んでいます。

Rule Making Project